

減災ハンドブックの使い方

防災、減災とは？

近年の大規模地震災害としては、阪神・淡路大震災と東日本大震災により、多くの方々が被害にあわれました。阪神・淡路大震災は冬の早朝に発災しており、自宅で就寝中の方々が家屋の倒壊や家具の転倒などにより、圧死を主に6,000人を超える死者が出ました。一方、東日本大震災では、巨大津波によって広域で被害を受けるとともに、水死を主に15,000人を超える死者が出ました。また、近年は記録的な豪雨や高潮による甚大な被害も頻発しています。

これらの教訓を踏まえ、いつでも、どこでも起こりうる大災害に対して日頃から備えるには、行政の災害対策の強化による「公助」の充実はもとより、住民一人ひとりや企業などが自ら取り組む「自助」、地域や企業、団体が力を合わせて助け合う「共助」が不可欠となります。



「減災ハンドブック」の使い方！

自然災害の発生を押さえ込むことは不可能ですが、普段からの“取り組み”により、「減災」が可能です。本村では、災害による被害を最小限に抑える「減災」が可能になるように、「自分たちの命・資産は自分たちで守る」という、「自助」、「共助」による防災・減災まちづくりの実現を目指す必要があります。

そこで、住民の皆様には災害に対する知識や対処法を知ってもらうため、普段からの“取り組み”について「飛島村減災ハンドブック」としてとりまとめました。

「飛島村減災ハンドブック」は、地域の特性や被害想定のほか、防災情報の入手方法や所持者が独自で記入する家族や職場の緊急連絡先、企業の対応など、オリジナルなハンドブックとして活用できます。

「減災ハンドブック」の使い方フロー

その
1

「減災ハンドブック」の内容を確認しましょう!

災害にはどのようなものがあり、発生するとどうなるのか? を、このハンドブックで確認しましょう。



その
2

家族みんなで災害に備えましょう!

● 家族で話し合っていますか?

家族との連絡方法、役割分担、家や地域の危険箇所、最寄りの避難場所などについて、事前に確認しておきましょう。

P25参照

地震や避難に向けて行動しましょう!

● 家の耐震化や家具の転倒防止

安全の確保に向けて、安全対策を行ないましょう。

P8参照

● 避難所や避難ルートの確認、 周辺の建物の高さや状況

いつ災害が発生しても対応できるように、家や職場、学校の周りなど、よく行く場所の周辺について、事前に調べておきましょう。

P13・23参照

● 非常時持ち出し品・非常備蓄品の準備

非常時に持ち出す必要のあるものや備蓄しておく必要のあるものについて、事前に準備しておきましょう。

P27参照



その
3

わが家の安全MAP、避難MAPを作成しましょう!

家族との話し合いをもとに、オリジナルの「減災ハンドブック」を作成しましょう!

P29・31参照